

資 料

ジョン・ロックのエドワード・
ステイリングフリート論 (下)
—復古体制危機時の教会論をめぐる一史料—

山 田 園 子 編・訳

- 一 はじめに
- 二 手稿の概要
- 三 手稿活字化の歴史
- 四 編集方針と凡例
- 五 翻訳 (抜粋、本号は fol. 84 以降)

fol. 84

これがモーゼによって明らかにされたユダヤ教徒の国と宗教の体制の概要だった。さてわれわれの救い主のそれを見よう。…この宗教は政治体制に何かの範型を付与するものでは到底なかったので、キリスト教徒団体において遵守されるべき統治の準則として、真の神をあのみ白かつ単純な、だが受容可能な方法で礼拝するために会合するという以外には何も、その追随者には残さなかった。…

fol. 85

…ユダヤ人の中での為政者には、モーゼが与えた律法に何かを加えまたは減じるような権力は、彼らの立法者モーゼによって何も付与されていなかった。それは神によって作られ、不変であり、したがって当の民の間での財産や所有物にかんする新しい準則と同様、礼拝の新しい形式や様式を作りまたは定めることは為政者の権限内にはなかった。…したがって、このことからキリスト教徒為政者の役割を想定して、キリスト教徒為政者が宗教について立法する権限をもったと議論することは困難だろう。…

fol. 86

…教会または公定教会等が用いるあらゆる議論が到達する結論は次のことに他ならない。世の中にはある一定の数・組の人々がいて、私はそういう人々を信用して、一層の検証を加えることなく、自分の救済を賭けるべきだということである。そうすると、教義を調べ、その気概を試し、信じるものに注意し、真理を抱け等々という指令や命令は、すべて無駄なものになる。その際、私がそれで真理を受け取ろうとする尺度や印のすべては、真理に伴う正当性の現われではなく、それを提供する者のお手並みにすぎなくなる。このことは、人々の資産という短期的かつ些細な関心事における以上に、彼らの魂の大なる永遠な関心事において、人々を悪く処遇するものである。というのも、金銀に刻印してそれらを流通貨幣にすることが君主の大権と認められても、為政者の刻印と肖像をもつものですら、その一枚一枚を調べる自由をどの人ももつからである。偽造の混ぜ物だという疑いを人々がもち、その様相を見てとるならば、彼らはだまされないようにし、それらを受け取らなくて良い。刻印が金銀を有効にするのでも流通させるのでもない。刻印は、その金属は多分有効であろうという程の、保証にすぎない。…それが無謬のローマ教会でない限り、臆見を真理に鑄造し、彼らの権威によってそれを流通させる権利を大胆にも主張する権力は、私が知る限りこの地上にはない。だがあらゆる所であらゆる人々が、この為政者がまたはあの聖職者がそう言うからという理由で、さまざまな教義を真理として受け入れかつ告白するよう、不当にも求められる。だが、これは何とも無意味なことであって、当の事態にとって手助けにも、またそうした何かの種類の見解にとって利益にもならない。というのも、教皇が彼と彼の使節への従順な信仰を求めるとしても、イングランドの主教はわれわれにこう語るからである。主教、及び主教の下で主教から叙任を受けた者達とが、真の教会であり信仰されるべきだ、と。長老派はわれわれにこう語る。長老派の叙任を受けた者達も同様の権威をもち、かつ教義と規律の全事項において彼らが信じられるべきだ、と。独立派とアナバプテストはこう考える。彼らには言うことが聞かれるべき正当性が、

前者と同様にある、と。そしてクエイカーは、自分達こそ唯一真の案内役であると考え、内なる光によってわれわれは導かれるべしと命じる。われわれの間にいるこれらすべての人々、その誰もが、教義と規律における無垢の真理の唯一の伝え手として彼らに耳を傾けるよう、われわれに求める。彼らは皆こういうことを、同様の確信と熱意でもって、そしておそらくは同様の神授の権威でもって、さまざまに主張する。

fol. 87

というのも、人間的権威にかんして言えば、この事例ではそれはまったく重要性をもたないことは確かだからである。さらに目をやって、これらにルター派、ギリシア正教、アルメニアン、ヤコブ派そしてアビシニア教会を追加し、さらにキリスト教圏から出て、ユダヤ教のシナゴークやマホメット教のモスクも追加するならば、マフティやラビも権威ある人々であり、他の誰とも同様に、欺瞞しない欺瞞されない者達だと自分達のことを考える。かくも多くのこうした対等な主張者の間にあって、自分達こそ真の教会であり、かつ信じられるべきであり、あるいは為政者は彼らの味方であって服従されるべきだとイングランド教会が言ったところで、何の役に立つのか。主教 G [グリンダル] や S [スティリングフリート] 博士がそう言うのでそれらは真の教会だと信じられるべきならば、B [バクスター] 氏や O [オウエン] 博士は長老派や独立派のために、H 枢機卿⁽¹⁾ や P [ペン] 氏は教皇主義やクエイカーのために、同じ権威に立って同様のことを言うだろう。というのも彼らは皆、自分自身を知る同等の能力をもって、かつ誤りや強制という同じ弱点に服して、そういうことを言う人間だからである。もし彼らが自分達こそ正当だ、または真の教会であると証明するならば、彼らは実際に正しい道を歩んでいるとしても、しかし、彼らが彼らの権威でもって彼らの議論を説き起こすのと同様に、私は私の権威をもって彼らの議論を考慮しなければな

(1) Philip Thomas Howard のことか。

らない。彼らは私の理性に訴え、そして私は検証し判断するために理性を使わなければならない。だがその際、イングランド教会は正当かどうか、その体制は神授権によるものかどうか、という最初にわれわれが提起した、そして将来もそうするであろう、まさしくその論点にわれわれは立つ。つまり、最良かつ最も安全と彼が考える教会は何かを、誰もが自分で判断する。われわれは法を味方につけ、われわれの体制は国法により制定され、世俗為政者がそれを薦めるからあなたはわれわれの教会に属すべきだ、というようなことが言われるなら、これが平和に、あるいはむしろ統一に、どれほどの近道となるか私は知らない。だが、これは真理への道からまったくそれていないとしても、大変な回り道だと私は確信する。というのも、宗教を制定する権限を、かつ法制定が適切だと考えるような礼拝方法へと人々を強制する権限をもつことが、もし世俗為政者に許されるならば、地上の現在の支配者を調査して・調査した後で、誰か私に次のことを教えてもらいたい。君主の法廷そして国を統治する議会からわれわれが受け取る以外のものは何一つ、世に現れるべきでも支持されるべきでもないということになれば、どうやって真理と宗教で強制しうるのか。われわれが生きている現代のことを何か考えて私はこれを言うのではない。お望みなら歴史上の他の時代を取り上げてもらってよろしい。そしてその際（もし地上の支配者が天への道を規定すべきであり、もし支配者の法が宗教の基準となるべきであれば）為政者の権力に服させることは、真の宗教にとって一体どんな利益となるのか、私にむかって彼に言わせよ。そして君主や支配者が将来もあまり事情に通じるようなことがなく、以前と同様に真の宗教に愛着がなさそうであれば、またどの人も自身のそれに関心をもつ以上に、彼らが人民や魂の救済に真摯な関心をもたないようであれば、彼らの法は真理を強制し将来の天の王国の臣民にさせるに最適な方法であるなどと、どんな道理でわれわれが当てにすべきか私には分からない。

この点で B [バクスター] 氏と S [スティリングフリート] 博士との間には非常に明瞭な相違があると私は考えるが、彼らの間での争論の根拠と思われるものは…教会統治の何らかの枠組みが有効かどうか、あるいは少なくともそこから分離されてはならず、彼ら自身が承認し、その運営に加わりそうなものか、ということである。最初の問題における彼 [スティリングフリート] の議論は、われわれの主教区主教制は原始教会に存在したものと実質的に同じであることを証明するが、十分ではないと思われる。というのも、他の統治と異なる主教区主教制の主眼点が、あたかも主教の数と彼らの管轄権の範囲のみに存するかのごとく、それが証明することは一都市に一主教がいたことにすぎないからである。…

fol. 89

…監督制の、あるいはむしろ教会統治の真の原始の状態であるものにもどろう。その最初の形式や方法は明らかに次のようだったと思われる。使徒や福音の最初の巡回説教師がどこかの都市で何らかの信用を得た際には、彼らは識見、思慮分別や年齢において最も相応な者を人々から選び、その者に、もっと多くの人々をキリスト教信仰へと引き寄せ、当該都市や近隣村落の住民の間に布教する任務と共に、すでにキリスト教信仰を抱いた人々を指揮する任務を委ねた。使徒や巡回説教者によってこうして指名された人々は、時には〔?〕牧師や長老といった卓越性や職務を意味する名称で呼ばれ、…時にはエписコポイ⁽²⁾、

fol. 90

主教や監督者とも呼ばれた。…ある教会の最近の学識ある著者は次のように認める⁽³⁾。それらの名称は、キリスト以後およそ 200 年間は、明確な職務の

(2) 原文はギリシア語で ἐπίσκοποι。

(3) この辺り、左欄外に modest survey of naked truth p. 22 と書き込みがある。これは、[Croft, Herbert, bishop:] *The Naked Truth. Or, the true state of the primitive church*, [London], 1675 への反論である Gilbert Burnet: *A modest survey of the most considerable things in . . .*

割り当てもなく、こうした無頓着にとどまってきた。…リガルティウス⁽⁴⁾ (ローマカトリックの学識者) …が白状するに (キプリアヌスやアフリカ会議の敬虔な文章を真摯に考察した上でのことで、白状はもっともなことだが)、キプリアヌスの見解はこうだった。全主教は対等であり彼らの監督責任は、上位の主教やペトロの継承者である教皇にではなく、われわれの祝福すべき救世主にのみ負うよう義務づけられていると。…

fol. 91

…われわれの著者がその範例としてわれわれに提供する聖キプリアヌス時代〔?〕のアフリカの原始教会は次のようなものだった。それは一都市に一主教のみがいたのであり…唯一の神、唯一のキリスト及び唯一の聖霊が存在し、したがって普遍教会〔the Catholick church〕には唯一人の主教が存在するべきだ、と新たな改宗者は承知していた。そこで彼〔スティリングフリート〕がわれわれに言うには、普遍教会とは一都市の教会であり、アフリカの教会には複数の都市主教区が存在したのだった。…キリスト後 400 年たった聖アウグスティヌス時代のアフリカでの原始教会として、A〔Author 著者〕がわれわれに語る教会形態は、各都市に唯一人の主教が存在したというものである。だが、一都市に正統派とドナティストの両方が存在した所では、次のように決着が付けられた。一都市に一人の主教で良いものの、それぞれの側で一人が、つまり一都市に二人の主教が存在し、当該一主教の主教区は時には 40 マイルに及んだが、聖アウグスティヌスはフッサラに主教をもう一人立てても良いと考えた。…

fol. 92a

…一人の主教、しかも各都市に一人だけの主教ということになぜ聖キプリア

Naked Truth, London, 1676 のことを指すと思われる。

(4) Nicolas Rigault (Rigaltius) (1577-1654 年) のこと。ジェズイットの教育を受け、メッツの議員、トゥールのアンタンダン、ルイ十三世の図書館員を務めた。ユヴェナリウスやテルトリアヌス等の古典を編集した。

ヌスが賛成したか、われわれの著者が語る理由は、それが教派分立を予防する最善の手段だったからである。…もしこのことが聖職者の上に主教を立てる十分な理由になるなら、それは大主教にも、さらに彼らの上に立つ総主教設立にも妥当するだろうし、そして一教皇の至上性以外にどこで決着がつくのか私には分からない。…

fol. 92b

…各教会の範囲、区別や統治を理解するために便利なことは、どのようにして最初にキリスト教が植え付けられ世に広められたかを考えることだろう。使徒や福音伝道者はこの新しい教えを説いて世界をあちこちまわった。そして福音をより良く伝道するために、都市から都市へ、一つの大きな町から別の町へとまわって、この教えを広めた。そこでは人々がたくさん群がって、改宗について彼らに希望を与え、どの町でも十分な数の改宗者をなした。彼ら〔伝道者〕は彼ら〔改宗者〕から一定数を選んで、あの宗教の面倒を見させ、その者達をエルダーやビショップ〔the Elders or Bishops〕と呼ぶ。エルダーやビショップは当該都市で管轄する統治者となるべき人々だった。その都市は一個別教会となり、ユダヤ教のシナゴグのやり方にならって形づくられた。そうした教会の構成をわれわれは、使徒言行録 20 章にあるエフェソに見る。他のさまざまな都市でも、どこかの都市で教会がこうして植え付けられると、これらの巡回説教者達はそれが発展し自然に拡大するままにした。そこから、根っこから生えるように、当の都市であいついで改宗される人々だけでなく、近隣村落で改宗された人々をもとりこむようになり、これを済ませてしまうと、彼らは他の都市へ福音を植え付けに行った。…

fol. 93

…各都市の各個教会は、あれらの長老達の慎慮によって指令され、かつ彼らの説教によって拡大され、長老の世話の下で、教会は自分達の発展を委ねられた。その結果、時が経つにつれ一部の場所では、当の都市自体におけるばかりでなく、近隣のパロイクア⁽⁵⁾やその周辺の村落においても非常に多数の

改宗者をなした。このように改宗した人々は皆、近隣都市の教会へ赴きその教会構成員になって、それがエписコパシー〔an Episcopacy〕となり、そしてパロイキアからはわれわれの教区という名称が由来した。そして、彼〔長老〕の区〔His Diocese〕という呼び名が、教会において相当長い間、主教の区〔a bishops Diocese〕を意味するものとして使われ続けた。キリスト教の最初の時代にこのパロイキアがどの程度の広がりには達していたかは、近隣を指すその語義自体がわれわれに容易に語るだろうし、都市のキリスト教教会に通って教会コミュニオンの便益を享受することを、そこに居住するキリスト教徒に許せる以上の広がりになることは決してありえなかった。だが、これらの都市やパロイキアの一部における信徒は、み言葉を聴き礼拝の公的行動を遂行するために一集会に集合できる数を超え、その結果、当の目的で会合する多くの会堂や教会を、そしてそこで司祭する多くの長老を擁した。とはいえ、それらは依然一つの教会と一つの会衆であり続けた。それは彼らが同一長老の一つの統治の下にあったからというだけでなく、あらゆる集会場所において全長老が分け隔てなく司祭し、かつ全構成員を差別せずに牧師や教師としての職務すべてを遂行したからである。信徒の側では、そうしたいと思うどの集会へ行くかは自由だった。…これがおそらく、キリスト教の最も原始の時代における各個教会の構成や範囲のように思われ、それはわれわれの現行の教区会衆とも、また当初からある主教制主教区とも異なる。というのも、それらは独立した教会であり、それぞれが彼ら自身の長老や

fol. 94

大勢の牧師や教師を通じて自分達で統治したからである。そしてそれらが後者と違うのは、キリスト教徒が存在するどの大きな町も個別の教会だったという点である。その教会は、そこに居住する改宗者にコミュニオンの便宜を、及び当該の町のキリスト教徒集会に共通する近隣ゆえの教会仲間の便宜を許

(5) 原文はギリシア語で *παροικία*。

す以上の、その地域周辺を超えた広がりをもつことはなかった。だが、後になってこれらの教会が単独者の統治下に置かれたエписコパシーへと形づくられ、その結果、権力の問題や野心の事項に及んでくると、これらのパロイキアは教会コミュニオンや人間の弱さを考えた便宜を超えて拡大され、その際、当然ながらその管轄域の拡大をむさぼる権力へと至る。エписコパルパロイキア⁽⁶⁾は拡大され、その結果、その名称は（それは近隣を意味するにすぎない）あまりに狭隘だとして、土地の大きな区画を意味するダイオシーズ⁽⁷⁾という〔?〕名称に置き換えられ、主教区または一人の主教聖職者の管轄下にあるなわばりを意味する〔?〕ようになった。…

fol. 95

…どの教会でも長老の間で一人の長が作られると、やがてそれが慣例となり、以前には他の長老と共通して彼にも付けられたエписコパス⁽⁸⁾という名称が次第にその長に適用され始めると、共通の名称が特定の誰かに適用されることは、大変分かりきった当然かつ当たり前のことになる。…だからといって、私がああ聖なる人々や教会の父祖を、野心や世俗的目的や昇進という現世的行動ゆえに非難しているとは、誰も考えないように。…

fol. 96

…だが、いくつかの大都市を、かつウィンチェスターからジャージーやガーンジー⁽⁹⁾、ロンドンからバルベイドスに至るまでの遠隔の地をしばしば一主教の下で包含する現代の主教区主教制⁽¹⁰⁾は、原始教会、聖キプリアヌスや聖アウグスティヌスの時代の実態とどのように同じなのか。…さらに彼〔ステイリングフリート〕はわれわれに次のことを明らかにしても良いだろう。使

(6) 原文は Episcopal parocias となっている。左の parocias のつづりは原文のまま。

(7) Diocess

(8) Episcopas

(9) Jarsi and Garnsi

(10) Diocesan Episcopacy

徒の時代以降教会へ何が導入されたとしても、それは人間の工夫にすぎなかったのだから、…最良かつ従われるべきものとなるものは、時間においてはなく、神自身がわれわれに設定した原始の誤りのない体制とその準則への信徒において最も近いものとなる。…

fol. 97 略

fol. 98

…彼自身の事例にもとづいて、われわれの主教区主教制が原始教会に存在したものと実質的に同じかどうか、さて博士に判断してもらおう。…最初に彼は、使徒が生存中は彼らは自分達で統治を運営したので、使徒の時代には決まった主教はいなかったか、あるいはいても少数だったと言う。…

fol. 99

…問題のむづかしさは以下にあるだろう。統治や命令の形態に関して何か独自の任務が、あるいは何か別個の権威が、他を超えてあれらの長老の誰か一人に付与されるならどこでも、それゆえに彼は長老に優越する高位の、あるいは別個の位階を構成する主教となったのか、ということである。…

fol. 100

…聖パウロが〔エフェソス教会を〕去る時に統治を委ねた主教の間では、誰か一人に他を上回る優位性も独自の権威も付与することはなかった。また当の長老達以外にエフェソス教会の主教というものも存在せず、そういう者の配慮に彼があな教会を委ねることはなく、すべてが同じ同等の権威を付与された。…長老を超えて統治、命令等々をする独自の権力や任務が、キリストや使徒によってそれぞれの教会にどこで付与されたかを明らかにできない限り、主教の神授権あるいは使徒授権はまさに無に帰することになる。…

fol. 101

…だが、世俗の権威が教会管轄と混交され、または人々をキリスト教徒にするために、若しくは人々が希望しようとしまいと彼らをあれこれの教会員にするために、事物の本性に反して暴力が用いられるとき、

fol. 102

宗教は国家の業務となり、教会統治は世俗の腕力に依存して、キリストの真の規律を無視する。キリストの真の規律とは、人を真のキリスト教徒にするのは説教と説得であること、キリスト教徒にならなければ、教会の交わりから彼らを閉め出して排除し、彼らの宗教を否認することだった。教会統治者だった人々は、真の宗教と彼らが呼びたがるものへと人々を力づくで強制したがるが、そんなことは福音にはまったく見出されない。しかし、こうした見解は宮廷で実際にしばしば好まれ、世俗支配の意図や利益に良くかない、かくして、職務がら恥ずかしいことに、福音の聖職者は宗教にとって最大の迫害者となる。そしてこれらのことはすべて、為政者の権力は聖職者の権威に与して、それを支え、彼らの命令を執行すべきである、という偽りの根拠に基づいている。これによって教会はその真の基礎からはずれ、人々の心に信仰と宗教の真実を伝えるに唯一ふさわしいその規律、つまり教導、議論と説得は、人々の騒擾、流血と混乱の情景と化した。そのかわら人々は、自分自身の救済に配慮するという自然的かつ福音的権利を守ろうとして、そして彼らが信じていない、または信じるできないものを拒否して、しばしばあの暴力に抵抗した。その暴力は不当にも、かつ福音の方法に反して、人々をあの宗教や教義の告白へと強制しようとするが、人々はそれを信じていないし、同意もできないのだ。またその暴力は、人々が仕えるあの神を不愉快にし怒らせると思われたあの礼拝様式に、彼らを加えてやろうと強制する。もしキリスト教が、それが始まった当初のまま、人々の心の真の確信と、彼らが正しいと判断する教えや規律への、暴力や強制を伴わない自由な服従に委ねられているなら、世俗国家の統治をかくもゆさぶるような改革という危険な問題が入りこむ余地はなかつただろう。[その危険な問題とは]それが正当なことならば、為政者がやらなければ人民が改革しても良いのか？ということであり、そのことをつきつめれば、次のことを意味する。為政者が暴力で打ち立て維持してきた教会の教えや規律を変更させようと、人民が

為政者に対して暴力を用いても良いのだろうか？ということである。実際のところ、為政者の権力がそれ自体、教会の規律や統治に利害をもち関与している以上、教会の改革は国家の無秩序と騒擾なくしてはなされ得ない。また通常、そうした改革は教会の問題を大きく修正せず、教会の平和と清浄に大きな助けにもならず、その間、改革者たちは、普通同じ土俵でことをすすめ、（教会に属していると彼らが考える）世俗の腕力を自分たちの側にのみ保持したいとひたすら願う。

fol. 103

そして、腐敗していると改革者たちが考え、良心に反してその一員になるよう為政者の権力が彼らに強いた教会から、（そうした事態になるとそれは不可避だが）暴力で撤退するばかりでなく、その同じ暴力を他の人々に向け、その人々が属し構成していた教会を去るよう強制する。その際剣によるこうした改宗者は、多分この変化の善さを納得しておらず、それ以前に支持していたやり方の方により満足していた。改革があろうとなかろうとどちらにせよこうした過ちを、世俗権力と宗教事項の混同が、そして霊に属する事項に肉の武器が介入する際に生むのである。しかし、われわれの救い主が（彼はこの世の王国をもたなかった）教会に置いたあの権力の執行のみに教会が委ねられるなら、改革は（それが必要な所では）福音が求める静穏と平和を世にもたらすことになろう。どの人も（これが唯一本当の改革である〔 〕）静かに自分を改革できる。それは良心からの悔い改めにもとづいて、誤りを捨て、自分の過ちを改めて、公的礼拝の方法に従事することであり、その礼拝方法は、宗教の目的にとって最も清浄かつ適したものと見出されるなら、彼が望むものであり、あるいは彼と一緒に他の者もそれに加わらせて良いものとなる。そして、これらのすべてにたいしては、何の騒動も起こらないだろう。彼をそこにとどめておくようなものが何もない、そんな腐敗した教会から人が抜け出るのに、暴力の必要はないからである。そして宗教問題において暴力を使うという、この偉大かつ根本的な教皇主義的教条が除去されるま

では、この世に平和と真理の希望はほとんどない。その教皇主義的教条からは、必然的に次のことが生じるからだ。スペイン王がルター派を焼き、フランス王がユグノーをつぶし、同様に、イングランドでわれわれは狂信者を罰し、長老派が権力をもったときには彼らが監督派を迫害し、独立派やクエイカーも説教師は彼らの教会に人々をとどめ置くために、為政者の権力を利用すべきだ、または人々を強制する何らかの世俗的な絆をもつべきだと考える。ドイツでの再洗礼派のように、彼らが危険な改革者ではないのかどうか、私には分からない。一方で改革が欠如していること、他方で改革の主張や欲求がキリスト教界で騒擾や混乱を起こしてきたこと、これらの過ちはすべて、世俗と教会権力との混交から出てあの暴力に到達した。その暴力は、キリスト教のさまざまな王国やコモンウェルスにおいて、国家的に認証維持される宗教の型に人々をとどめるために、またはそこから追い出すために用いられてきたのである。…

fol. 104

…この節で A [Author 著者] が強調すること、つまり教会は国家的でありうる、一つの世俗政府に属す民は皆同一教会の民でありうる、ということが真実なら、同様に、教会は国よりも大きくも小さくもありうることも真実である。というのも、一教会を作るのは、統治の同一法と神礼拝の同一準則を同一に表明して、人々が自発的に結合することによるからである。…そうした国教会にかんして A [Author 著者] は次の誤りを犯していると思う、とだけ私は言っておこう。つまり、これらの国教会は個々の会衆に権限をもつ、すなわち会衆の 個々の権限を、彼の言葉によれば、制約し決定する ということである。…

fol. 105

…A [Author 著者] が言う、各会衆が優越的教会権威に責任を負わず、さまざまな礼拝準則や信仰教義をもつなら陥るであろう無秩序や混乱にかんして、私は次のように答える。個々の教会が個々の礼拝準則と信仰教義を得る

ことを、危険だと彼が考えていないのは確かだと。というのも、もしそれがローマ教会とはたいそう異なったものをイングランド教会が得るに至った次第ならば、また信仰箇条及び独自かつ固有の礼拝方法を何の不都合もなく持つ特権をイングランド教会が有するならば、大なり小なり何らかの教会が、大した不都合なく同一特権への権利をなぜもってはいけないかということになるからである。…

fol. 106

…博士は国教会の必要性を強調し、それが宗教の維持、平和の擁護、そしてキリスト教徒の団結、さらに危険な誤謬と無限の混乱の回避につながるとした。そして／1. 宗教の維持について、国教会が国教の維持に至ることは確実だが、それが真か偽かというおぞげをふるう追加がある。だが、国教会が維持するものが真の宗教でなければ放置しておけば良いし、その一員になることは到底われわれの義務ではなく、またそれを打ち立てることは何人の義務にもならない。…2. 国教会がキリスト教徒の間での平和と団結の擁護に資するということは、前者と同様決まりきったことである。というのも、それが擁護する平和と団結は、同じ教会の人々であるキリスト教徒の間でのことに他ならないからである。…

fol. 107

…ここでの平和の志向というものは、もし国の全員が国教会の構成員ならば、あの事項〔同じ教会のキリスト教徒だということ〕にかんして彼らは平和ということにすぎない。そして同じ議論が普遍教会〔the universal Church〕にも当てはまるだろう。つまり、全キリスト教徒がカトリック教会〔the Catholic Church〕の信仰、礼拝と統治の一つの準則で一致するならば、あの事項にかんしてもはや何の相違もなくなるから、それは強力に平和を志向することになる。だが問題は次のことにある。人々の良心への支配を伴って、そして人々はそれに服従すべきだという義務を言い張って、そうした普遍的または国家的教会を設立する努力は、私が遭遇してきた以上の十全な論証を要

するということである。だが、その問題について率直に言えば、教会の平和と団結はただ慈愛と善意によってのみ擁護されるものであって、厳格かつ硬直的な統一の強制によるのではない。…というのも、世において平和と団結を守るものは、心からなる団結と願いであって、外的な統一や見せかけではないからであり、もし彼らがキリスト教の準則に従うならば、見解と礼拝の両方において異論をもつ相手とも、彼らは平和と団結を共有しうるだろう。／3. 国教が危険な誤謬を回避しうるということについて、イングランド以外の他のキリスト教諸国は言うに及ばず、スペイン、フランス、モスクワを考える限り、それらのどれもが国教支持のために同じ議論を用いるのだが、どうしてそれがそうなるのか私には理解できない。そして際限のない混乱について私が考えるに、それは見解の多様性に行き着くだけであり、福音と矛盾する他の何事かの誤謬や迷信から自身を立て直す自由を人がもたないなら、そうした誤謬や迷信における団結よりも、それは一層悪いことなのかどうか、誰にも考えてもらいたいと私は願う。…

fol. 108

…手短かに疑問を言うところなる。正しかろうと間違っていようと、彼がそれらを信じようと信じまいと、他者が強制する教義と礼拝に服従しそれらを公的に支持するよう、人々が盲目的に強制されるのが最善なのか、あるいは心底彼らの魂に関心をもつ人々が可能な限りそれへの最良の方法を探し出すのが最善なのか、ということである。後者は人間の最重要事、つまり彼の永遠の幸福や悲惨を自身の配慮に置くことであり、それを求めることは自己の最大の関心事である。前者はそれをただ偶然の手に置くことであり、悪くするとしばしば、野心や立身という世俗的目的に益するためにのみこの権力を利用する人々の手に置くことになる。…

fol. 109

…もし救世主がこのような団結を企図すると想定され得ないなら、明白なことは、そんな団結や統一がなくても教会は維持されると救世主は承知し、そ

う意図したということである。…キリスト教界全体にわたって分裂かつ分散した各個教会か、信仰、統治及び礼拝にかんして同じ共通の絆の下におけるそれらの連合か、どちらが良く宗教を促進し、かつ教会の平静を確保しそうか？…もし連合⁽¹¹⁾を、団結するという会衆の自発的な同意を含意する語、と博士が本気で思うならば、…博士が考慮しなければならないことは、自発的に連合する自由をもつと想定される人々は、さらにそうしない自由ももつ、ということだ。…そして何らかの国教会が普遍教会〔The Universal〕との連合を免れるのであれば、その同じ理由で個々の会衆も同じ特権を国教会にたいしてもつだろう。…

fol. 110

…そして国教会を相互耐忍と自発的同意以上の何かの上に設立することが…いったん聖徒に広められた信仰を維持するために、（A〔Author 著者〕が意味するような）効果的な手段ならば、信仰等を維持する方法として、次のことを彼が考えるのかどうか私は尋ねたい。それは、聖徒に広められていないだけでなく、信仰に反すると人が確信するような教義の外的告白へと人を強制することである。

fol. 111

そうしたことは、良心に反して国教の一員となる義務の下に人々が置かれると起こるに違いなく、この手段によると、国教会に理があろうとも、そうした改宗者は依然悪い存在にとどまり、教会の〔?〕偽善的な告白者にすぎなくなる。…

fol. 112 略

fol. 113

…議論の締めくくりで、彼の言う国教会がいかに設立されるに至ったか、彼はわれわれに説明する。彼が言うには、主教と長老が共に集い、教義簡条、

(11) combination

礼拝準則と規律で同意するのである。…だが、主教と長老の大半がそれに同意したのだから、国教会の一員になるのが人々の義務だと言われるならば、最初に証明されねばならないのは、真理の明証性及び教義並びに礼拝の純粹性によってではなく、準則の数によって自分の信仰を選ぶのが人間の義務なのかということであり、あるいは、多数者が彼を抱えこんだ時に、自分の良心の納得に反して進むべきかということである。…かく団結した主教や長老は、彼が言うには、国教会代表者である。…ここで検証すべきことは、自分の代表者が信仰箇条や礼拝準則で…一致すると、何人も心底から考えているかどうかである。…

fol. 114

…だがひとまず、信仰や宗教の問題において人は自分の代表者をもちうると考えておくとしても、私が代表者にしたのではないその者が私の代表者になりうるのか？…所詮この国家的代表的教会は（そういうものとしては）、その教会に自発的に服従する人々以外の何人の上にも権限をもち得ない。…A〔Author 著者〕は実際他の場所で主教についてこう語る。彼らは、弱小君主らが一王国に団結するように、国教会に団結すると。このことは実に彼らを代表以上の完全な君主にし、彼らが適切と考えた服従や統治形態の下で、しかも彼らが適切と考えた人物への服従の下でキリスト教徒を処遇するという、神の選民への支配権を伴う。その結果、…教会は同じ教義、統治と礼拝に自発的に団結したキリスト教徒の団体ではなく、主教が適切と考える教義、統治と礼拝へと盲目的に彼が導く一群のキリスト教徒にすぎなくなる。…

fol. 115 略

fol. 116

…彼〔スティリングフリート〕が国教会について提示する次の条件は、信仰箇条と教義、礼拝準則と規律が、教会代表つまり世俗権力により是認かつ制定された主教や長老によって同意されていることである。そして実にこの点に国教会の基盤がある。…人々の宗教は世俗為政者に依拠するというご託宣

を彼は現に明らかにし、かつ救世主によって指名された教会統治者には何の権限も残さなかった。…彼が国教会について提示するもう一つの条件は、その制度が国全体によって受けいられていることである。このことは大変正しいと私は考えるが、国の大半の人々が団結するものとして国教会が真に存在するために、多数派の宗教を採用することが、どのようにして何らかの国の何らかのキリスト教徒の義務になるのかは、むづかしい問題となろう。…彼は未だ国教会の条件を十分に提示してはいない。ただ、すべての人々が

fol. 117

さまざまな会衆において団結のために同じことを遵守すべきだという〔?〕だけである。私が想像するに、刑罰法の力による強制を彼は意味する。…A〔Author 著者〕と私が絶えず念頭に置かねばならないことは、完全であれ不完全であれ、教会とはその構成員の自発的団結以外の何ものでもないということである。イングランド国教会の彼の記述において私は彼に完全に同意し、それに疑いをもつ人々に対しては、彼と同様不思議に思わざるを得ない。そういう人々は彼らの味方に立つ国教会をもてば喜ぶのだらうと私は想像する他ない。私が彼と見解を異にするのは、

fol. 118

この国教会が作られたのは、国法と同様、議会における国民の共通の同意によって受け入れられたからだ、と彼が言う点にある。…法を制定するのと同様に、何人も自分かわりに宗教を作る権限を他に付与する、または付与しうるか？ 私が確信するに、私は決してそんなことはしなかったし、できるとも思わない。それは教会の教義、規律と礼拝にかんする各人自身の良心、及びそれゆえにその構成員となりうる彼の自発的な団結への迫害であり、…もしある人が教義の真実性や儀式の正当性に自身納得がいかなければ、それらについてどんな法律を制定しようとも、彼の代表者の決定は彼を、その代表者らが受け入れられている教会の構成員にすることはできない。…多分この問題で私に分かることは、宗教上の非本質的事項にかんして教会法を制定

する権力を世俗為政者をもつと言われるだろうということである。…非本質的事項の命令または禁止にかんする世俗為政者の権限について、この残された概念に今や十全に答えるなら、

fol. 119

世俗為政者は世俗事項において、かつ世俗目的のためには、疑いもなくその権限をもつ、と私は言うだろう。もしそのことが、彼が宗教事項において、かつ宗教上の目的のためにその権限をもつということになるなら、私は絶対否定する。…為政者は何事かの信仰を命じまたは禁じることを自己の権限内にもたない。いかに真か偽、または非本質的であろうと、信仰不信仰はその人自身の心の制御しがたい行動であり、他人はもとより自分自身でさえそれを命じることはできない。それゆえに、為政者が命令権限をもたないことを行っても、為政者はそれに罰を科する権利をもてない。…国教会にかんしてかくも長たらしい議論は次の問題、それは A [Author 著者] が言うには、国教会の一員になるのはわれわれの義務だという問題に至る。…

fol. 120

…私がある一員である国の主教や長老によって同意された教義、規律と礼拝を私は受け入れるべきか、すなわち私の国の主教や…聖職者の宗教を信じるべきか、ということである。…調べてみればその最終的な結論は、そして人がその下に置かれる最大の義務となるものは、次のことに行き着く。誰もが、それを見出すどこにおいても真理を真摯に求めて着実に擁し、かつ神にとって最も受容可能だと彼が考える礼拝方法で神に仕えるべきだということである。それは手短かに言えば、人は自分の良心において最良だと考える宗教を擁し、その教会の一員になるべきだということである。…

fol. 121

…人が本当には信じないことを告白して嘘の中で生きることを、または神が禁じかつ神を不快にするだろうと彼が考える礼拝を神に提供して全能の神を侮辱することを正当化することは、平和と団結（異なった形式や見解の間で

も慈愛がなおそれを維持するだろう）の現われではない。…王国の法に準じて行動する教会会議がイングランド教会代表であると博士は言うが、そのことは王国の法にもとづき教会会議が代表権限をもつ、ひいては議会におけるわれわれの世俗代表が別途に宗教上の代表行為をなすことのように思われる。…

fol. 122

…だが、このこと以上に私が確信するに、宗教事項において自分のかわりに別人を代表にするのは誰の権限にもなく、いわんや自分にかわる代表を他人が設定することはできない。というのも、どんな方法で全能の神を礼拝するかを決定する権限を、誰も他人に付与できないからである！…同じ節でA〔Author 著者〕はわれわれに次のように言う。宗教上のどんな事項においても教会会議が彼らの判断を熟慮かつ言明し、かつ王と議会がそれを発効してきたので、それはどんな国家的なものがもつと同様、偉大な国家的合意をもつ。…私は博士に尋ねたい。世俗事項でどの臣民をも義務づける法を制定するに十分な国家的合意は、宗教事項でどの臣民をも義務づけるような法を制定するにも十分なのかと。…

fol. 123 略

fol. 124

…何か他のものと同様に国教会が存在しても良いという点で私は博士に同意する。それは手短かに言えば、全国民（またはその大部分）、為政者と人民が教義、規律と礼拝の一つのコミュニオンに団結しようということであり、そして同様に、世俗為政者の教義をもたない少数の人々が一コミュニティに団結して良く、そうしたものがキリスト教の最初の教会だったのだから、当然、国教会と同様に真の教会でありうる。…世俗為政者がその構成員だからといって、国教会は他の教会以上に信仰告白をさせる権限を、あるいは儀式、礼拝様式、コミュニティの形式を設定する権限をもたず、さらにそのコミュニティに入り、そこに居続けるよう人々を強制する権限ももたない。…

fol. 125

…他の教会が権限をもたないと彼が考えるならば、私が知りたいのは、国教会だけがどうやって当該権威を伴うようになったかということである。…博士は彼の仲間には非常な配慮をし、区別のつけようがないほどに、(自分達の味方だと彼らが考える限り) 世俗権力を教会のそれに介在させ混同する。彼らの行動を彼らの権威を超えて支援するために、そこ〔世俗権力〕から彼らが借りる偏頗かつ不適正な援助を、人々は認知してはならない。…

fol. 126 略

fol. 127

…大問題は次のことにある。この団体の創設者だったキリストと使徒は、彼らに授けられたあの神的権威と無謬の霊によって、上記のすべてを提供するようなこの団体の政策を設定し、かつこの団体用の統治形態を作ったのかどうかということである。もしそうであれば、それにかんする全論争は終わり、キリスト教徒になる者は皆そうした教会統治に服従し、神的権威がその権限を制定した人物の下にあるべきだ。…だがこの事例における聖書の沈黙と同様この議論の筋道でも明らかなように、もしわれわれの救世主や使徒が教会統治をあのまま変わらぬ形態に放置しておいたならば、

fol. 128

すなわち明白なことは、各教会のそれぞれの統治形態はすべて人間の制度だということである。…教会法は、主教の合議体である教会会議上院を通過するだけでなく、さらに下院つまり下級聖職者の代表体も通過し、かつ王の批准を得なければ、強制力をもつに至らない。…地区内の長老に教会法上の服従宣誓をさせるという権限について、この権限をもつ人物は王により提案、指名され、聖堂司祭長と参事会と呼ばれる選別された長老により選ばれ、そして主教と長老によって合意される。今や監督制は神法に依拠するものではなかろう。…そして神法に依拠するものでなければ、それは人間法によるのみであり、彼らが役職者である当該団体に依拠しなければならない。…

fol. 129

…というのも、主教になるという任務を彼の前任者の手を経て天から受け取った、と彼が言い張るとしても、王と参事会が彼を指名する主教区以外のどこにおいても、あの権力を彼は行使できないからである。…その結果、私の靈的統治者または聖職者の指名は神の準則ではなく人間の（そしておそらくは世俗の）制定による。だが、教会団体において何事かがなされるべきだとしても、聖書と神の準則が沈黙して、それをする何の権威も付与せず、そしてそれをするどんな方法も規定せずに、それを人間の慎慮にゆだねた所では、決定し設定する権力は当該団体自体のみに、あるいはそうするよう彼らが指名しかつ権威づける者のみに存在しうる。…

fol. 130

…彼〔教区牧師〕に十分の一税を支払うよう私は良心において義務づけられ、主教は他の九分〔?〕程の権利をもつ、と私は認めるが（国の世俗法はその両方をわれわれに定める）、靈的な義務下で彼のものにするよう私は決して国法によって義務づけられず、同様に同じ法によって私は教皇主義者、アリウス派やソシヌス派になるように義務づけられない。…彼はこの世の生活のために十分の一税を集めうるし、私は、私の靈的教化のためにその一員となるであろう教会〔?〕聖職者を選ぶことができ、そのことは私と同様、私の仲間の他の教区民全部にも当てはまるだろう。…そうなると、彼らは彼らの教区牧師や代理牧師を選べないとしても、彼らの靈的案内役や聖職者を選べないのかどうか、という問題が出てくると私は思う。…

fol. 131

…もし彼〔スティリングフリート〕の議論が真実であり何らかの力をもつとすれば、それは一つの至高性において権威を言い張る人々への盲従に行き着くのみである。それは確かに平和と団結への道だと私は認めるが、真理と救済へのそれではない。…キリストの教会のものであるあの真の団結と平和については、そうした自由の下でもそれはなお維持されうるだろうし、私が考

えるに、博士が自身の歴史を調べるならば、主教や聖職者の指名権が聖職者の手にあった時の方が、もう少し良く維持されていた。…この世の光り輝く情景、教会支配の暗黒の壮麗さ、そして教会での大出世を超えたものに博士が少し目を向け、聖職者を道づれにした、そして聖職者を信頼して信じた宗教を道づれにした人々を、地獄でどんな悲劇的な光景が待ち受けるかを考えるならば、その悲惨さはあれらの些末事や無秩序をはるかに凌駕するだろう。…

fol. 132

…A [Author 著者] はわれわれの教会を守るために、神が指定しなかった礼拝のいかなる実質的部分の追加をも拒否して、不当なコミュニオン条件を定めないように努力する。そこで彼の言によれば、議論の増加よりも躓きがちな心の解きほぐしを彼は言い張って、神礼拝の実質的部分と単なる偶有的事象との間の相違をわれわれに示す。…これによって彼は次のように言うように思われる。…もし神による設定以外の何も礼拝の実質的部分とすることができないならば、ならば、教会が強制するのは礼拝の実質的部分ではないから、どんな儀式であろうとそれを強制することでいかなる教会も罪とはなり得ない。…

fol. 133 略

fol. 134

…さて、異論をもつ兄弟のあの信念に対して (彼が現に企てるように) 彼が何を行って、神礼拝の実質的部分と単なる偶有的付加物との明白な相違をわれわれに明らかにし、かつ何が宗教礼拝で正当に命じられるか否かについて明確に境界を設定するかを見よう。第一に、何事かを神礼拝の部分とするには神による設定が必要だと彼は言う。礼拝の実質的部分を他の何かから区別する準則は実に明確であるが、それによれば、すでに明らかなように、どんな強制であれ不当にならなくなる。…A [Author 著者] が 344 ページで言うには、それ [儀式] は良俗と秩序のためであり、それはそれ自体において全

能の神を喜ばせ神に受け入れられるものとして命じられるが、A [Author 著者] が言うには、迷信や不当なものではない。それ自体においてそうではないのに、

fol. 135

良俗として、かつ秩序のために命じられるべきものは何かと私は尋ねる。…それ自体において良俗や秩序と何も関わらないものを、秩序上良俗のためだからと教会立法者が強制できないのは確かであり、同様に、それ自体において必須でも受容可能でもないことを、必須かつ受容可能として教会立法者は強制できない。…われわれが見るに、国教会は皆それら〔儀式〕をかくも増加したが、いったん実践にもち込まれたものは何であれ手放すのをかくも嫌がる。そうした強制的擁護に際して、何が良俗であり、かつ秩序のためか、教会統治者が判断者となるようしばしば迫られてきたし、そうになると、それ自体において神を喜ばすものは何かについても、彼らは判断者となる。…

fol. 136

…これらの節で博士とA、B、C氏⁽¹²⁾との間で非常な距離があるのは、空中に書く印、信条の共通告白、礼拝の〔?〕、礼典儀式等々にかんしてであり、私はそれらを彼らの間での決定に委ね、われわれの著者が洗礼時十字印を擁護してより明瞭に何を言うかを考えよう。彼がわれわれに言うには、十字のこの印はイングランド教会で用いられる入会儀式であり、十字架上で死んだ彼〔イエス〕の礼拝に幼児が捧げられる奉獻の儀式ではない。…

fol. 137

…⁽¹³⁾イングランド教会の洗礼や理屈においてこうした〔奉獻としない〕十字印の使用は、私が確信するに、かつて博士以外の誰によっても考えられたこ

(12) ステイリングフリート批判者の非国教徒、Vincent Alsop, Richard Baxter, David Clarkson を指すか。

(13) 以下の部分は挿入として、このフォリオ左欄外に書かれ、次フォリオ fol.138 の左欄外へと書きつがれる長文をなすが、ここでは全文を訳さなかった。

とはほとんどなかった。…十字印を切ること〔?〕は、洗礼で使用されるローマ教会のさまざまな儀式の一つだが、イングランド教会への入会を示すにも適切であると公的に信じられ、当時はローマ教会から区別されるためにそれが始まった。…さて、十字印はイングランド教会への入会儀式としてのみ使用されると博士は証明しようとするが、…それがキリストの普遍教会ではなく、イングランド教会への人々の入会を意味しうるか、このことは博士の考慮に委ねる。…

fol. 138

…しかしながら博士がわれわれに言うには、洗礼は普遍教会への入会権利〔儀礼〕⁽¹⁴⁾であるように、十字印はわれわれのイングランド教会へのそれでもあり、十字印は入会の厳粛な権利〔儀礼〕⁽¹⁵⁾であって…私的な洗礼では差し控えられる。私は博士に尋ねたい。入会用に指定された厳粛な印が省かれたら、そのように洗礼された人はイングランド教会の会員になるのか。…問題は次のことであろう。…人が教会よりも博士を信じ、イングランドキリスト教会への入会儀礼としてのみそれをとらえ、彼の子供に洗礼の礼典を受けさせたいと願うものの、十字印がキリスト教界の大部分で迷信的に使われることを知ってその印に非常なためらいと疑いをもち、その結果、洗礼の印としては省かせたいと望んだ場合、もし彼がキリストの礼典を拒否されるならば、何人も何を言うべきか。…

fol. 139

…博士なら次のように言うだろう。教会はそれらを一緒に行うことを便宜と考え、かつ教会はそうした便宜の判断者であると。…便宜的なものは何らか

(14) ロックは rights と書くが、ステイリングフリートのつづりは rites 「儀礼」である。このことは手稿各所に見られる。文脈上判断に迷う箇所やステイリングフリートからの引用箇所では「権利〔儀礼〕」とした。ステイリングフリートが rites を rights の別つづりとして使っている可能性を否定しきれないからである。

(15) 前注と同様である。

の目的でそうに違はなく、教会儀式に特定される目的は良俗、秩序と教化がすべてであり、その結果、もし洗礼に十字を付すことがこうした目的の何かに便宜的でなければ、教会が便宜の判断者だと主張しても無駄だろう。…そしてもし（便宜の判断者である教会についての）この議論が、十字印を洗礼と不可分にするために妥当であるならば、それはローマ教会の散水、油、塩、そして他の気取った物全部（皆それ自体において非本質的事物である）の使用にとっても妥当となる。…この博士の議論にはさらに考察されるべきことがある。

fol. 140

というのも、聖職者は二重の資格で行動すると彼は言うからである。すなわち、彼が洗礼する際、キリストから引き出される權威によって彼は行動する。これが一つの資格であり、さらに彼の発言が意味をなすには（とはいえ、博士はそれを公言することを用心して避けるが）別の資格がなければならず、それはつまり、彼が子供を受け入れ十字を切る際、彼はキリスト教会の構成員から受け取った權威によって行動する。…その結果、博士の議論によれば、現在入会を許可する権限は団体つまり人々にあると思われる。…さらに、入会許可権限が人々にあるなら、その結果、（神自身がそれを規定しなかったとしても）彼らの入会権を指定する権限も人々にあることになる。…A [Author 著者] はイエスの名におけるお辞儀の要請においてわれわれの教会を擁護し、次のように言う。イエスの名におけるお辞儀は、鐘の響きで教会へ行くのと同様であり、彼の名の発音の際にキリスト以外の名には礼拝はなされない。…もしその時が礼拝時だということを示す一つの印としてあの [イエスという] 音が発音されるなら、その音が発音されるのはあれ [イエス] に対してではなくなる。この命令によれば、イエスの名が発音される際にはいつでもとある。…

fol. 141

…私は博士から次のことを知りたいと願う。シラの子のイエス⁽¹⁶⁾の名が教会

で (しばしば起こるように) 発音される際に心からお辞儀をする人々は、教会法を遵守する彼らの義務を果たしていないのかどうか。…イエスの名がたまたま発音されることが礼拝の適切な折となるなら、その同じ功德で、あの名〔シラの子のイエス〕でもそうなると思われる。…このことは次のことを怪しむ正当な理由とならないだろうか。聖書の一部の箇所誤解がこの名前へのひいきにつながり、尊崇への特別な印ぬきには決してそれは発音されるべきではないと考える、そういう見解を人々の心に引き起こしたと。そのことは (もし私が博士自身の準則を見誤っていなければ) それを迷信に非常に近いものにする。…

fol. 142

…宗教改革の開始時点では、人々は迷信とローマ教会のさまざまな外的様式で育ち、それらを本質的かつ必須の部分、否ほとんど宗教全体と信じるよう教えられてきたので、それらについての彼らの尊い見解を容易に放棄することはできなかった。そのため、不当ではなかったものと同様にあの儀式の多くを保持することは、できるだけ多くの改宗者をもたらすよう努力した教会においては、当時は教会コムニオンを拡大するためのものであって、それを狭めるためのものではなかった。というのも、当時の人々は過剰な儀式よりも、むしろ寡少な儀式に躡く傾向があったからである。…

fol. 143

…そうした事項の保持は、それらが合法的であっても、それらの保持によって傷つきかつ締め出された者が他方の側にどれほど多くがいるかを、われわれがとくに考慮するならば、その点ではわれわれの教会にとって害とならざるを得ない。したがって、われわれの現在の儀式の内、可能な限り多くのものを除去することは、われわれの教会コムニオンへ非国教徒を戻す今や適

(16) 旧約聖書外典「シラ書〔集会の書〕」(新共同訳所収)は「シラの子イエス」の祈りで終わる。イエスの名でのお辞儀が教会法上の命令なら、シラの子であるイエスの名でのお辞儀も義務づけられないか、というロックの皮肉である。

切な方法となろう。…だが、このすべてに答えて、われわれの博士は次の古くさい（つまり先の本と同じくらい古くさい）理屈を用意する。われわれの教会が賞賛できるものとしてそれ（つまりイエスの名でのお辞儀等）を是認するので、…それ自体において不当だと立証されるのでなければ、われわれはそれを拒否すべきではない。これには私は、古くさい分かりきった私の回答をしよう。それが良俗、秩序または教化に役立つのでなければ強制されるべきではないと。…

fol. 144

…⁽¹⁷⁾これらの儀式は作られ、作られ続けて、キリスト教会のコミュニオン条件となるに違いないが、他方、生活の聖性や節制は考慮されなくなる。私は誰にも次のことを考えてもらいたい。周知の飲んだくれや墮落した人間でさえ、彼がイエスの名でお辞儀をし、他の強制された外的儀式に熱心に従いさえすれば、あの教会かつ同じ教会の〔?〕の良き構成員となるような、そんな教会規律を救世主キリストは許しあるいは承認するだろうか。そのかたわら、福音の全準則に〔?〕真摯な服従をする〔?〕熱心かつ敬虔なキリスト教徒は、イエスの名でお辞儀できないという理由で狂信者とみなされる。…

fol. 145

…病的興奮抜きにこの問題で真実をわれわれが語ろうとするなら、私が確信するに、それが分離の一大原因であり、まじめな人々、イングランド教会の聖職者でさえそれを歎くのをしばしば私は見出す。…彼の議論や類似の論考をわれわれがよく考察すると、人々がいったんキリスト教徒に、かつ何らか

(17) 以下の文は⊕状の印で始まり、左欄外に‘From ⊕ to ♀ is to be left out here and put at the end of all that is sd of Ceremonys’「⊕から♀まで、ここは削除され、儀式について語られたすべてに終止符を打つべきだ」とある。♀の印は、三紙葉後 fol.147 の末尾に登場する。本文はロックの手だが、左欄外の書き込みは彼の手ではない。ここから fol. 147 の末尾まで、いったん書かれたものの、ロックの激しい国教会批判の言辭に留保が提案されたと考えられる。次注参照。

の教会の構成員になれば、あたかも次のごとくそれらが語るように思われるからである。彼らは彼ら自身の救済をこれ以上求めるべきではなく、当該団体への入会に際しては入会の原因となったあの永遠の幸福への配慮を放棄するべきであり、かつ教会統治者の恣意的権力と振舞いに彼ら自身を全面的に委ねるべきだと。…

fol. 146

…私が言ったとおりなら、それ自体不当だとは何も否定できない教会でも人は去って良いし、各集会や礼拝儀式で使用される言語を良く理解できないからという理由のみでそこを離れて良い。…このことをわれわれの現在の事情に当てはめ、ある教会の無頓着な構成員として長い間生きてきた人が、別の世や彼の永遠の状態について真剣に考え始めたとしよう。そして彼が構成員だった教会における信仰や実践の教えがすべて真実であり、儀式はすべて正当かつ非本質的なものから成り立っていると彼が見るものの、しかし、その教会の統治者、教師や主だった者達に大変信用があって評判が良く、また外的なかつ制定された儀式において大変熱心かつ几帳面ゆえに最善の評価を受ける構成員として熱意あるとされる人々が、それ以外の生活ではさほど真のキリスト教的敬神の傾向をもたず、そのかたわらで同時に、模範的な良き生活をする他の人々が無視され、かつ軽んじられさえもしたことを見出すとしよう。…彼はこんな団体を去って良いのではないか、そしてより適切な救済策があると考えるところか他の教会へと出かけても良いのではないか、と私は言おう。…

fol. 147

…このことはイングランド教会にいたあの多くのすぐれた説教者のせいではありえないし、彼らへのとがめ立てを意味するのでもない。…彼らの説教は非国教徒によってさえ太鼓判を押され、彼ら〔非国教徒〕の多くは宗教上〔?〕に見えるが、彼らの説教を自分達の教化のためになると考え、われわれの教会へ来てさまざまな聖職者の説教を聴く。…だが、彼ら〔非国教徒〕

は私にこう白状するに違いない。彼らの驚嘆すべきかつ信念ある議論さえ、かくも多くの形式的かつ皮相的キリスト教徒を、彼らの会衆のどこにおいてもなお残す主たる理由は、彼らの〔?〕の多くが外的信従への熱意に満足し、そこに見出す充足と賞賛に黙従するからであると。…⁽¹⁸⁾

fol. 148

…イングランド王の臣民が世俗的平和（そして彼の王国の団結）を守りうるのは、自分達の法によって統治されるさまざまな団体や組合が王の法に服従することによる。それと同様に、キリストの王国の臣民がさまざまな団体における互いの間の平和と団結を守りうるのは、キリスト教の共通の利害におけるキリストの法への服従及び仲間の臣民としての相互の愛による。ロンドンに組合が複数あっても、それらが静穏に共存できるはずなら、そこでの教会が…他を妨害し、辱め、破壊しようとするそんな騒動を引き起こすとは誰も言えないだろう。…われわれの教会が求める名付け親と呼ばれるゴッドファーザーとゴッドマザーの洗礼時の儀式は、

fol. 149

それ自体非本質的な他の儀式と同様に、先に言及された福音におけるそうした事項を規定した準則にもとづいて調べられなければならない。…彼らを通じて子供は信仰と悔い改めを約束すると考えられることになる。…A [Author 著者] が391 ページでわれわれに言うように、もし子のかわりに名付け親が約束し、しかし教会はそうしないなら、名付け親は自分達が責任を負えないことを引き受けることになる。…第二に彼が言うには、その意味は、子が悔い改め信仰するよう名付け親が努力を約束するということであり、それだけが彼らの権限内にある。これは、洗礼に求められる条件にかんしてわれわれの教会が言明すること、そして洗礼されるべき人物に何が求められるか?という教理問答の問いへの解答と両立しないだろう。…そんな約束を

(18) この紙葉末尾に♀ 状の印があり、前注の記載にある fol.144 上の⊗ 状の印を受ける。

実行するのは彼らの権限内にはない。…

fol. 150

…幼児洗礼の際にわれわれの教会には名付け親の席があるが、成人洗礼の際には、ともかくも何事かを約束し引き受ける者を私は見ず、洗礼される人々の唯一の証人に（会衆の他のすべてと同様に）〔?〕がなる。いかにそれが穏当な〔?〕だとしても、そのことは彼らを、幼児洗礼の際にわれわれの教会で求められるゴッドファーザーとゴッドマザーという名付け親とはまったく異なったものにする。…もし博士が（間違いなく彼はわれわれの教会史にずいぶん良く通じていた）この論争の熱狂の中でわが身を少しでも振り返ったなら、われわれの教会においてわれわれの改革者が儀式を保持する大きな理由は古代教会への尊崇の念である、などと彼は確実に言いはしなかったろう。…

fol. 151

…儀式にかんして彼ら〔改革者〕はこう言う。教会で使用され、その始まりが人間の設立にあるそうした儀式は、最初は信仰篤い意図と目的で工夫されたが、ついには無益かつ迷信となった。…一部は無分別な敬神によって教会へ入りこみ…切り捨てられ拒否されるにふさわしい。他については、それらは人間によって工夫されてきたものの、依然それを擁するのが適切と考えられる。それらは教化のためになると同様に、教会の穏当な秩序のためになるからであり、使徒が教えるように、そういうことのために教会における万事が配慮されるべきである。これにより私が思うに、人間が工夫したどんな儀式であれ、その一部または他が教化にも資するのではない限り、良俗と秩序という口実によってさえも神礼拝に加えらるべきでないということは明白である。…

fol. 152

…その結果、儀式のいくつかは人々の望みに応じてのみ受け入れられ、かつ制約を伴って許された。／この年つまり 1550 年の終わりまたは翌年の初め

に、B〔バーネット〕博士が言うには、共通祈祷書の改訂があった。…ここで彼が言うように、最も重要な追加は日常礼拝におけるそれだった。それらは罪の集団懺悔にかんする非常に短い、だが非常に簡素にして厳粛な形態を用意し、それには集団赦免が付加された。…他の追加はコミュニオンの儀式におけるものであり、…その結果、われわれが見る追加は非常にわずかなもの、かつ人々の教化のために非常に必要なものだった。…

fol. 153

…ヘイリン博士は（儀式問題ではとうてい無頓着ではありえない人物）エリザベス女王の初年の項でこのことを大々的に記し⁽¹⁹⁾…教皇主義派に躓きや妨害を与えないよう大きな配慮がなされたとする。…音楽は教会で保持され、かつ昔ながらの祝祭もすべて守られ、こうした従順さと、上で記した章句の除去によって、祈祷書は教皇主義者の間でも通用可能となり、その結果10年間、彼らは〔?〕や支障なしに自分達の教区教会に赴いた（それは明白な勅書によって教皇がそれらを禁じるまでのことだったが）。これらの経過において、あれらの賢明かつ敬虔な改革者を何が統御したのか、私はこうして詳細に明らかにした。その際、全体を通して彼らに押し寄せた大困難は、改宗者を減らさずにいかに儀式を減らせるか、ということだったとわれわれは認めて良い。

fol. 154

…だが、この事例は現在のわれわれに妥当するか。多量の正当な儀式によって、教皇主義者の間に新たな収穫を得、彼らをわれわれの所へやって来させるという希望をわれわれはもてるか。もてないと私は思う。…だが他方で、プロテスタント非国教徒はわれわれと同じ原則に立つ党派のかくも大きな一部となり、教義上われわれと完全に一致し、かつわれわれのコミュニオンから排除される。それはより多くを求める願望によるのではなく、われわれが

(19) 左欄外に‘Hist: of Reformation, p.283’とある。

教会においてもつこれらの儀式の多くに対する良心上の躓きによる。宗教改革の当初は人々をとどめておくためだったというその理由が、現在その厳格な強制を正当化すると誰が言いうるか。…

fol. 155

…少なくとも宗教事項において服従すべき人々は理性的な被造物だと認められるはずなので、その事物が非本質的であり、かつ為政者が強制したいからという理由で、遵守を人に義務づけるのは十分ではない。理性的被造物と認定されることが彼の服従の行使であり、つまりそれにはあの事項で道を示すべきあの目的が伴わなければならない。…秩序と良俗が唯一その目的に則ったものになる。…私が思うに、この点の根本的な間違いこそ、儀式にかんするこの論争において信従を提唱する人々が、それについて神授の権力を得ているようなやり方で教会について通常語り、そのため、何事かがあの目的に適しているかどうかを考えずにすむ理由となる。…

fol. 156

…非国教徒が非難されるべきことは、われわれの教会コミュニオンの特権を手放すという選択における頑固さ以外の何ものでもないが、それを彼らは正当になしうるのだ。…現行教会は儀式を増やすことはなさそうだと博士が証拠を提出しても、現在のイングランド教会がそれら〔儀式の減少〕で大きな得をする、あるいは教会が相当のへりくだりを示すとは、非信従派は（私が確信するに）考えないだろう。…

fol. 157 略

fol. 158

…そしてこの分離をなす主因が何であれそれは、あれらすべての耐え難い欠陥がわれわれとローマ教会との間にもたらしうる以上に、われわれと彼ら〔長老派〕との間の亀裂を広げるきっかけとなる。彼らは教義上全面的にわれわれと合致しているので、誰もその理由では彼らを非難しないと私は思う。彼らが異を唱える儀式は、われわれの教会のそれらであって、(少なくとも

それらの大半は）非本質的事項にすぎないと認められるものであり、その点に彼らの分離におけるこの大きな原因が横たわる！彼ら〔長老派〕の統治が監督制でないという、このこと以外には私は何も見出せない。…そしてこのことが、キリストは決してそうしなかったものを救済に必須とする、人々の良心への暴虐行為となるようなものかどうかは、（それを博士はここでわれわれの分離の理由の一つとするが）、考究に値するだろう。

fols. 159, 160 は白紙。

fol. 161

絆 独立派教会において彼らの牧師に与えられる絆は、この論争において、教会がいかに鳥かごのように作られているかを明らかにする。それは引き窓があって、日頃は野生の空の住人であろうと、他の鳥かごから逃げたものであろうと、あらゆる鳥が自由に入ってこれる。だがいったん鳥が入ってしまうと、そこに閉じこめられ、外へ出る自由はもはやない。その理由は、もし外出が許されればわれわれの鳥かごは意味をなさず、ここの鳥どもの幸せは飼い主の関知する所ではないからである。

目的 ⁽²⁰⁾儀式にかんする論争において、われわれの教会人はあたかも彼らの教会が神の力をもつかのように語る。教会は、それを利用する目的に何かの儀式が適っているかどうかを考える必要はなく、さらに何が適しそれゆえに何を指定すべきかを考える必要もなかったが、実際には、指定することでそれらを適したものにすることになる。それが神自身が指定したことかどうか私は疑わざるを得ないが、無限の力以外には何もそうすることはできないと私は確信している。

負担 それ自体において不当ではないからという理由で、儀式の強制を正当化するのには十分ではなく、その数や不都合によっては、それらは負担であ

(20) 以下の説明文は線で削除されているが、判読可能かつキングは掲載している。以下の文は山田が手稿から読み下して訳したものである。

り、強制する人々は正当化され得ない。…割礼自体は非本質的であり、パウロがティモテを割礼したように、そこに十分な目的がある所では、福音の時代に用いられても良かっただろう。だが、使徒言行録 15 章のように、もしその命令が重荷と判明するか、あるいはそれが〔不〕必要だという見解があったなら、それは不当になった。

分離 非本質的事項であってもそれらを強制する人々が強制権限をもたないのであれば、それらを強制する教会から分離することは不当ではない。というのも、強制する権威のない人々によって強制されることは、それを行うよう何人にも義務として課すことができないからである。したがって、そうした強制がない所へ人々は行って良く、強制を継続し強制に反発するよりも、この方が教会の平和のためになる。世俗為政者と共であれ、あるいはそれ抜きであれ、教会会議は全イングランド人に対して強制する権限をもたない。

…

教会 私が思うに、長老派、独立派あるいはユグノー教会において人は救われうると認められるだろう。これらはすべて現在イングランドにあり、イングランド教会とは別教会であるものもあれば、そうでないものもある。…ある人が長老派教会の一員であり、もし彼がそこから分離して独立派教会へ行くならば、長老派教会における罪深い教義や儀式を彼が明確にしない限り、彼は罪をとがめられるのか。もしそうならば〔彼が分離の罪を問われるならば〕、もしあの教会から彼が分離してイングランド教会へやって来れば、彼は同じ罪に問われるだろう⁽²¹⁾。…だが、われわれの儀式や規律がより良いものだからという理由で、彼らが罪なくしてわれわれの教会へやって来れると博士が言うならば、その結果、より良い教化を目的として、そのコミュニオンに何の罪もない一教会から正当に人は分離できるということになるだろう。…

(21) この辺りは if 節が連続し、文章構造を正確に把握できなかった。

fol. 162

ノヴァティアン⁽²²⁾ …フリギア人はより厳格な魂をもつキリスト教徒として、ノヴェルトゥスに従った。多くのノヴァティアン主教がいた。フリギアのパチにおけるノヴァティアン主教の会合は、ユダヤ人が行うようにイースターが守られるべきだと命じ、このことは彼らと西方の信徒仲間との間に一層の分裂を引き起こした。…ノヴァティアンはコンスタンティノーブルに教会をもち、彼らと正教会は同じ教会に集い、アリウス派迫害の間は非常に親密だった。しかし、ノヴァティアンは正教会とコミュニオンをもとうとしなかった。…サンガムでノヴァティアン主教の会議があった。…この会議で彼らは、誰もが好むように自由にイースターを遵守すれば良いとした。…

主教 コンスタンティノーブルのノヴァティアン主教区で、アゴリウスはリシニウスを彼の継承者に命じ、その後、人々が嫌ったのでマルキアヌスを命じ、最初にマルキアヌスに、次にリシニウスにものを言えと人々に告げた。

寛容 テオドシウスはノヴァティアンとアリウス派に寛容を認めた。

fols. 163, 164 は白紙

fols. 165-166 は索引

fol. 167 は白紙

（本資料は平成十九～二〇年度科学研究費補助金基盤研究（C）による研究成果の一部である。）

(22) ローマ帝国におけるキリスト教迫害に際し、棄教したキリスト教徒でも迫害終了後はキリスト教会に復帰できるとする人々に反対して、ローマの司祭ノヴァティアヌス（ここではノヴェルトゥス、Novatianus? -257/8）は、復帰には十分な悔い改めを要するとして、厳格な立場をとり教会分裂の原因を作った。彼はフリギア出身と言われている。